

みんなで支える森林づくり地域会議の開催状況

森林政策課

日時等	概要
【上小地域 第1回】 開催日時：平成27年11月10日 13:30～17:00 出席委員：5名	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査（森林づくり推進支援金による間伐材活用事例） ・会議（大北森林組合の補助金不適正受給等、森林税活用事業の実施状況等）
【諏訪地域 第1回】 開催日時：平成27年7月24日 13:00～15:30 出席委員：7名	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査（みんなで支える里山整備事業による施工中、計画中の団地） ・会議（森林税の活用状況、森林税活用事業の事業計画等）
【諏訪地域 第2回】 開催日時：平成28年1月12日 10:00～11:30 出席委員：7名	<ul style="list-style-type: none"> ・会議（大北森林組合の補助金不適正受給等、森林税活用事業の実施状況等）
【上伊那地域 第1回】 開催日時：平成27年7月8日 14:30～16:30 出席委員：10名	<ul style="list-style-type: none"> ・会議（森林税活用事業の実績、事業計画等）
【上伊那地域 第2回】 開催日時：平成27年11月9日 13:30～17:30 出席委員：10名	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査（地域で進める里山集約化事業を活用した搬出間伐の団地、地域材の加工施設） ・会議（大北森林組合の補助金不適正受給等、森林税活用事業全般等）
【南信州地域 第1回】 開催日時：平成27年7月16日 13:30～16:00 出席委員：7名	<ul style="list-style-type: none"> ・会議（森林税活用事業の実績、事業計画）
【南信州地域 第2回】 開催日時：平成27年11月18日 13:15～15:30 出席委員：6名	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査（森林づくり推進支援金による景観整備等） ・会議（森林税活用事業の実施状況、大北森林組合の補助金不適正受給等）
【木曾地域 第1回】 開催日時：平成27年7月2日 13:25～15:00 出席委員：8名	<ul style="list-style-type: none"> ・会議（森林税活用事業の実績、事業計画等）
【木曾地域 第2回】 開催日時：平成27年12月8日 13:30～16:30 出席委員：8名	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査（民有林と国有林が連携した素材生産の状況、森林づくり推進支援金により整備された木製遊具施設） ・会議（森林税活用事業の実施状況、大北森林組合の補助金不適正受給等）

<p>【松本地域 第1回】 開催日時：平成27年11月27日 13:30～15:30 出席委員：7名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議（大北森林組合の補助金不適正受給等、森林税活用事業の実績と実施状況等）
<p>【大北地域 第1回】 開催日時：平成27年11月6日 13:00～16:30 出席委員：4名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査（補助金不適正受給に係る現地） ・会議（森林税活用事業の実施状況、大北森林組合の補助金不適正受給等）
<p>【長野地域 第1回】 開催日時：平成27年11月11日 9:00～15:00 出席委員：9名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議（大北森林組合の補助金不適正受給等、森林税活用事業の実績、実施状況）
<p>【北信地域 第1回】 開催日時：平成27年7月2日 10:00～11:30 出席委員：8名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議（森林税活用事業の事業計画、広報計画等）
<p>【北信地域 第2回】 開催日時：平成27年12月14日 10:00～11:40 出席委員：8名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議（森林税活用事業の実施状況、大北森林組合の補助金不適正受給等）

主な意見

【森林税活用事業について】

- 地域要望の森林整備が国庫補助の要件に合致しないのであれば、このような時に森林税をつかうべきと思う。地域の要望に対応できる森林税活用事業にしていただければ有難いし、もっとそのような事業を増やしていただきたい。
- 全国的な動向として、皆伐して植林する方向に移りつつある。間伐したところは、何年間か皆伐ができないことになっているが、今後、皆伐が進んでくると、制限に見直しが出てくるのではないか。また、間伐実施について承諾した所有者と山を売る人が世代交代により代わってトラブル起きる恐れがある。よく趣旨を徹底する必要がある。
- 中山間地域において、森林税を使った山づくりが地域づくりとなり、有効に働いている。
- 森林税による搬出間伐は、機能していないのではないか。
- 搬出支援について、公共施設に導入した薪ボイラーの供給に対して有効であると考えている。
- 森林税の使い方として、地区の集会場整備などに財産区など地域の材を使った材料の支援などもいいのではないか。地域の材を使えば、地域の製材屋に仕事が入り、地域経済の循環があると思う。
- 信州の木活用モデル地域支援事業、木育推進事業について、各団体の手の上がり方（応募）の実態は、今後も積極的にPRをお願いします。
- 木育推進事業について、事業内容が似かよっているので、県全体でどのような活動をしているのか紹介してもよいのではないか。
- 森林税は県民からいただいているお金なので、県民のためになっているとアピールし、分って頂けるよう努力をする必要がある。
- 森林税の広報について、様々な取組が一般の県民のところまで届いていない。
- 事業メニュー、使い道が多岐にわたっているので、できるだけ有効に活用できるよう、よくポイントを絞って執行していただきたい。
- 森林税の事業はある程度順調に進んでいると思われるが、使い方について改めて検討の時期に来ているのではないか。

【今後の森林管理等について】

- 循環が滞っている現状が課題。私の生産森林組合も無料奉仕で森林整備を行っている状態。働いた分だけ、収入が得られる状態にしてほしい。年々森林整備は、難しくなっている。今後、森林をどうやって維持管理をやっていくのか悩んでいる。
- 現状の森林は、若齢林が少なくアンバランスな状態にある。森林は循環できる資源であり、間伐だけでなく更新についても考える時期にきているのではないか。

- 売買がいけないとか、伐るのがいけないとかではないが、山の目的に見あったように、最初からうまく循環していけたらよいと思う。100年200年の単位になっていくので、山にとってよいのは、人の暮らしがあることだと思う。うまくバランスを取ってくれるとよいと思う。

【補助金について】

- 間伐するのに補助金が必要で、さらに加工する施設の整備にも補助金があつて県産材が利用できるということで、補助金がなかったらこのシステムは続かないのかと、ちょっと悲しく思った。補助金というものは限りなく続くということはないので、仮に補助金が終わったときにどうなるのかということを考えてしまった。

【大北森林組合の補助金不適正受給等について】

（事案の背景）

- そもそも未着手、未施工などありえない、度を越えた逸脱を止めることができなかった、検査することができなくて結果として予算消化という形でことが進んでしまった。ルールがどうではなく、そもそも未施工での補助金申請についてはあり得ない、想像を絶する部分。そこに関して、現場の検査できなかったのは問題ではあるが、まさか未施工とは想像ができなかったかもしれない。森林整備をしてなくても、作業道作ってなくても気が付かない、山への関心が低いという背景がある。
- この問題の一つの根っことして、林業が経済的に成立していないという事実がある。林業は補助金のない時代からあったが、木材価格の低迷等の問題等で生業として成り立たなくなった。補助金は、その場を食つなぐためにしか役に立っていない。林業が再生して補助金を使わなくても良いような仕組みができるような方向に向っていない。

（責任明確化、事業の正常化）

- 時効により返還を請求できない金額が大きい。大北森林組合の理事達も、報酬が急に増えたりしたことに違和感を覚えなかったのか。何も知らなかったとは言えないのではないかと。県の職員は見返りを得てはいないとされているが、世間には不信感がある。十分に調査して明らかにしてほしい。
- 当事者の責任を明確にすることが大事だと思う。理事長以下理事への刑事告訴も必要とあればすべき。給与等の急激なアップしたという状況も報告されていることから、損害賠償請求もシビアな対応をするべき。きちんとした責任を取っていただき、県に努力してもらい、自治体も応援しなければいけないが、早期にいい形で森林整備ができる体制づくりに向けた指導をお願いしたい。二度と不祥事が起きないコンプライアンスのきちんとした機能を発揮してほしい。
- 大北森林組合の専務理事個人が誤魔化したことで、森林、林業に関係する人間の信用を失墜させたことが切ない。納税者としては、だまされたという意識である。今回の一件の実態が把握されてきたので、森林組合の執行部については刑事処分も仕方ない。長い間誤魔化して請求してきた方もそうだが、支払った方も馬鹿げており、そういう点での不信感がある。北安曇の林務課は、おかしいという感覚がなかったのか、あまりにも審査が甘すぎたのか、それが林務の体質であれば問題である。今回の場合は林務課の職員がペナルティを受けるのも避けられないかとは思う。
- 若干驚いたのは、多額の金額を何年かかっても返済する、ということ。仮に9億円が正しいとすれば森林組合が返せるわけがない。そういういい加減なことを言わず、何とかして県民の皆さんに迷惑の掛からないような努力をしていきますというくらいではないか。責任だけは明確にして正常化することを考えることが大事。難しいことだが、500円ずつ支払っている県民が納得できる方向性を示すことが必要。

（再発防止）

- 最初は県と組合が真っ向から対立し、森林組合が有利なように思わせる報道だったと思うが、急きょどんでん返しで、組合が県の指導に従い再生していくという立場となった。今の段階では、説明を受けた最終報告書の内容に説得力がある。これに基づいて進めてもらえば正常化に向かっているのではないかと。
- これだけの大金が不正に流用されたことには、問題を起こしたところのモラルのなさを感じる。

森林税による交付金などはまだ必要とされており、こうしたことが二度と起こらないようにしてもらうことが重要である。

(説明、情報発信)

- 大北森林組合の不適正受給は、特に作業道で割合が高い。大北地域における森林組合の立場や地域の事情にどのような原因があったのか。癒着しやすい条件があったのではないかと思う。1業者との間だけに下請け工事契約が多かったことが原因の一つになるのではと思われる。地域で複数の民間の林業事業体等と競争原理が働いていればこのような不祥事は防がれるのではないか。また、一般県民の目には、造林事業の制度が一般的な入札による受注方式なのかそうでないのかはわからない。県民の目にわかりやすいものとして事業の仕組みを説明していく工夫を県にはお願いしたい。
- 森林組合とはどのようなものか、造林事業等の事業制度はどういう仕組みかといったことを県民に知っていただくために、いろいろな機会を通じて情報を発信していただきたい。
- 森林税について8割くらいの方は賛成の立場だが、反対を唱える人たちの間には、木材生産のための施策は森林所有者が負担すべきものという考えが根強い。森林税が定着することにより里山の整備が進むことを考えれば、そのあたりの根本的な説明も十分にしてほしい。
- 森林の荒廃に起因して災害が発生すれば、森林税をはるかに上回る負担が県民に等しくかかってくることになる、公益的機能とはこのような形でも県民1人ひとりに及ぶものであるという説明をした。行政には、県民にわかりやすい丁寧な説明のし方について工夫をするようお願いしたい。
- 森林税は長野県として価値のある制度でぜひこの流れを続けていってもらいたい。山村部に比べ、都市部では違った受け止められ方をしていると思う。その点をしっかり払拭できるように、説明して分かってもらうようにしていただきたい。森林税が立ち消えにならないことが心配である。今回のことで間伐推進の動きが委縮せずに、流れが止まらないように進めてもらいたい。林務部にも、しっかり法令遵守などコンプライアンスを大切にしてもらい、委縮せずに仕事をしてもらいたい。

(県民負担等)

- 10億円弱という多額の補助金について、大北森林組合から県に補助金が返還されなければ、さらに県が立て替えて国に返還しなければならない。県が二重に支出しなければならなくなり県民に負担が及ぶ。大北森林組合からの補助金返還をスムーズに行い、県民に余計な負担が及ばないようにしていただきたい。

(年度末申請)

- 大変な努力をして詳細な調査されたことに感謝。市民感覚としては本当に考えられない。森林組合はなあなあ、まあまあという体質があったのではないかと感じる。事業量が減って人件費が増えているのは市民感覚からして考えられない。どんな場合でも駆け込みの事業は県も市町村にもあると思うが、2月以降の申請は取止めるというのは妥当と思う。

(職員の業務量)

- 間伐しなければいけないというのは相変わらずあり、現地や森林組合で人材を育てることが出来ていなかったのか。県の職員の数も減っており、よそから見ても、仕事量に対してこんなに人を減らして大丈夫なのかと思う。忙しいからできなかった、だから犯罪的にこういうことをやった、

というのは言い訳にならないが、膨大な作業量をこれからもこなしていかなきゃいけないということで、大変だと思いますがこれからも頑張ってもらいたい。

(その他)

- 長野県林務部には、現在困難な事案が出ているが、森林整備などの果たす役割は大きいことから、このことを持って林務行政が萎縮することなく、ぜひ引き続き山づくりに取り組んでいただきたい。
- 大北地域の不祥事は反省すべきだが、林務課では、親身に相談にのっていただき、気軽に現場に足を運んでくれる。今後も萎縮することなく従来どおりやっていただきたい。
- 森林整備の手段ではいろいろ問題あったと思うが、森林整備は必要なことであったと思う。
- 大北森林組合の関係は、いろいろな事情、背景があると思うが、必要としている長野県の森林資源をどのように維持管理していくかという大きな役割があるので、このことによって森林税規模や使い道が縮小することがないようにお願いしたい。
- 必要な森林の維持管理については、萎縮しないようにやっていただきたい。
- 森林整備は、森林税などでいっそう進めてもらいたい。地域の人と話した限りは、森林税に対するマイナスの意見はほとんど聞かれなかった。思ったほど気に留めていない人も多い印象もある。事故でのヒヤリハットの対策ではないが、今回のようなことも今後は酷くなる前のヒヤリハットで止める勇気を持って是正してもらえればよいと考える。森林が国土を支えているので委縮せずやってもらいたい。森林に関する仕事は、大事な仕事をしているというプライドを持って、きっちりとすることはやっていただきたい。
- 森林組合全体への風当たりが強くなっており、管内の森林組合は皆迷惑している。森林税への意見には、いろいろあると思うが必要な財源であり、継続してもらいたい。
- 林業関係者にとっては非常に残念で、悲しい事案ですが、ケリをしっかりとつけて委縮せず、今後の森林整備をしっかりとやってもらいたい。
- 今回の不正については、初めに聞いた時に感じたイメージと調査が進んできた内容が大きく違っており恐ろしい話だと感じた。こちらは、今までどおりしっかりとやってもらいたいと思っている。
- 森林税の事業に関しては、継続してやってもらいたい。問題が発生していないところにも迷惑がかかって大変だと思う。何か起きた時にやっていないところでもどこにでも起きうるミスが多く重なって起きているので、ミスが重ならないように注意して、しっかりと堂々とやってもらいたい。
- 今回の事案の反省は必要であるが、あまり萎縮せずに前向きに指導をお願いしたい。皆が元気に仕事ができる体制を早く整え、課題の解決を図ってもらいたい。
- 今回の事案により、森林税で信州の山を整備して良くしていこうという熱意がしばまないようにして欲しい。